

3.11.5 標準化推進室

室長（兼務） 成瀬 由紀 ほか5名

国際標準化による研究成果の社会還元への推進

■概要

戦略的かつ重点的な標準化活動を実現するために策定されたNICTの標準化に係るアクションプランに基づき、NICTの研究成果が実社会において広く活用されるよう、国際標準化活動の強化、推進を行い、我が国の国際競争力の強化に貢献している。具体的には、国際標準への反映を念頭においた研究開発を推進し、その成果を国際電気通信連合（ITU）等の国際標準化機関や各種フォーラムへ寄与文書として積極的に提案することを支援している。また、NICTは専門的な知見を有する中立的な立場であることから、国内における各種の標準化関係委員会への委員の派遣等を積極的に行っている。さらに、標準化に関するフォーラム活動、国際会議等の我が国での開催を積極的に支援している。

■平成30年度の成果

1. 標準化活動の推進

(1) 研究開発成果の国際標準化に資するため、今中長期目標期間における戦略的な標準化推進の基礎として重点分野や具体的な行動計画等を定めた「情報通信研究機構標準化アクションプラン」（平成29年3月策定）を、研究開発・標準化活動の進展や標準化機関の動向の変化等を踏まえて更新した。

研究開発成果を国際標準に反映していくため、各種国際標準化機関等における会議等に積極的に参加するとともに、平成30年度においては研究開発成果等に基づき延べ229件の寄与文書を提出した。また、標準化に係る各種委員会、国際標準化機関等の会議等において、平成30年度は延べ39人が議長やエディター等の役割を務めた。これらにより、光ファイバ無線システムの国際標準規格であるITU-T勧告 G.9803（図1）を含む、NICTの研究開発成果に基づく国際標準等3件の成立に貢献した。

(2) ITU-T/R/D、APT、ETSI、3 GPP等の国際標準化機関・団体への参加資格（メンバーシップ）を引き続き維持した。

(3) NICTの職員の国際標準化活動に関して、平成30年度においては、一般社団法人電波産業会会長表彰を受賞する等、テラヘルツ通信、ワイヤレスネットワーク、光アクセス基盤、ネットワーク仮想化、セキュリティ等の分野への貢献に対して8名が表彰された。

2. 標準化に関する動向把握・人材育成

(1) 関係組織と協力し、電波利用懇話会「欧州標準化動向ETSIの活動紹介」（平成30年8月・東京）、IoTセミナー「IoT/AI活用によるビジネスイノベーション」

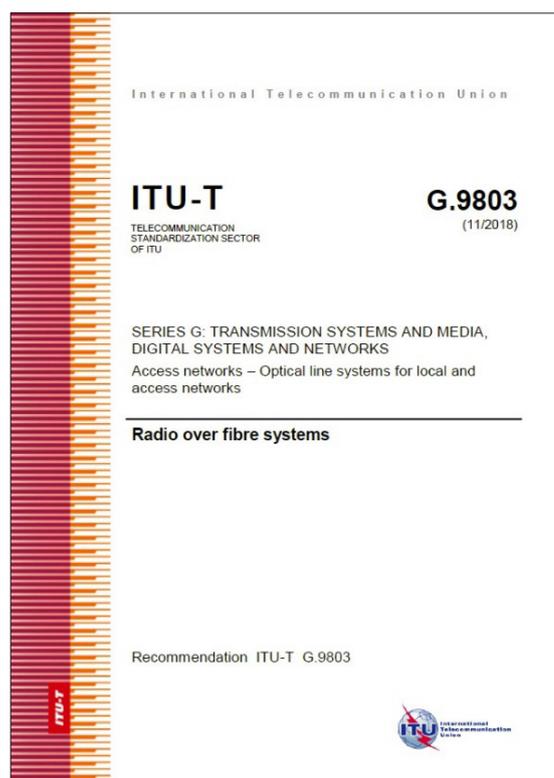


図1 平成30年度に成立した国際標準の例
シリーズG：伝送システムとメディア、デジタルシステムとネットワーク
アクセスネットワーク - ローカルおよびアクセスネットワーク用の光回線システム
光ファイバ無線システム
IMTシステムのフロントホールや、滑走路の異物検出システムの信号配信システムへの活用が可能

ション」(平成30年12月・東京)(図2)、
「oneM2Mインダストリー・デイ」(平成30年12月・金沢)、標準化セミナー「ネットワーク仮想化関連の技術動向等について」(平成31年1月・東京)等を開催した。

- (2) 一般社団法人電波産業会(ARIB)との間で平成24年度に締結した連携・協力の推進に関する協



図2 IoTセミナーの様相

定に基づき、第6回NICTとARIBの連携・協力推進に関する連絡会(平成30年9月)をARIBにおいて開催し、無線通信関係の標準化活動に関する意見交換を行った。

3. 標準化関連イベントへの参画

- (1) APT Industry workshop(平成30年5月・バンコク)の開催に貢献した。
- (2) 有線/無線のローカル・エリア・ネットワーク(LAN)などの標準規格を策定しているIEEE 802.1(平成31年1月・広島)の会合運営を支援した。
- (3) 量子情報技術に関する産学官連携を推進している「量子ICTフォーラム」(平成30年11月・東京)、製造現場におけるワイヤレス化の規格策定と標準化、普及促進をするFFPAが主催するセミナー(平成30年7月、10月・東京)の会合運営を支援した。